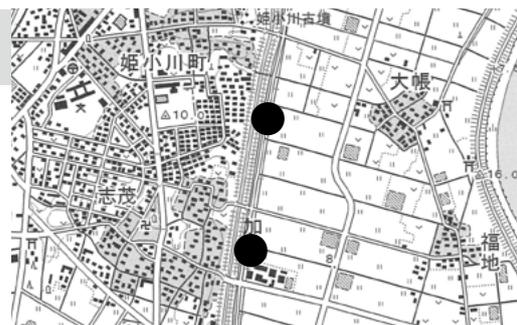


よせしま
寄島遺跡

所在地	安城市小川町 (北緯34度54分34秒 東経137度05分45秒)
調査理由	中小河川改良事業(鹿乗川)
調査期間	平成26年6月～平成26年12月
調査面積	2,740 m ²
担当者	酒井俊彦



調査地点(1/2.5万「西尾」)

調査の経過 調査は中小河川改良事業(鹿乗川)に伴い、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて当センターが委託を受けて実施したものである。本遺跡は平成19年度から調査を開始し、今年度で5回目、総調査総面積は13,450m²である。今年度は、遺跡南部である平成19年度と23年度の調査区に隣接する道路部分と昨年度13B区の北側の調査を行った。前者にA～Dの4調査区を設定し、後者にE区を設定した。E区は遺跡北端にあたる。

立地と環境 本遺跡は矢作川下流域、鹿乗川左岸の沖積地に立地する。右岸の碧海台地上には姫小川古墳などの古墳群が展開し、平成12年度より本センターが調査を行っている鹿乗川左岸には、北から南にかけて姫下、寄島、下懸、五反田、惣作の5遺跡が連続して所在する。現在の鹿乗川は碧海台地東辺を直線的に南流し、川の西側の遺跡周辺は平坦な沖積地である。中世以前の鹿乗川は矢作川沖積地を蛇行して走り、下懸遺跡、惣作遺跡、姫下遺跡で東西方向の旧河道が確認されている。遺跡はこの旧河川の自然堤防上に展開する。標高は約7mである。これまで遺跡の南から調査を行った結果、古墳時代の集落、墓域が検出されている。

調査の概要 今年度A～D区では、これまでの調査で検出された古墳時代集落と墓域の展開の状況を確認することが主目的であった。遺跡の南端に相当するA区では遺跡の南を画する東西方向の古墳時代以前の時期の旧河道を確認し、南側の自然堤防上で下懸遺跡につながる堅穴建物2棟を検出した。自然河道の北側は墓域であり、平成19・23年度の調査で検出された、古墳の周溝と推定された方形に巡る溝の延長部分および方形周溝墓をA・B・D区で確認した。B区の北半とC区は集落域であり、堅穴建物群とこれに先行する時期の当遺跡に特徴的な平行して走る溝群が検出された。古墳時代以外の時期では、B区で中世の大形土坑が1基検出された。E区では、上面の遺構として中世の溝群、下面の遺構として古墳時代前半の堅穴建物群、溝群、土坑が検出された。中世の溝は南北方向の旧河道の堆積層の上層で河道と同方向に走るものと、自然堤防上で東西方向の幅広の浅いものが確認された。

まとめ 今年度E区では北に位置する姫下遺跡との境界部での遺構展開が問題となった。昨年度13B区では堅穴建物は検出されなかったが、E区では検出されたことにより集落が途切れながらさらに北に広がることが確認された。また、平行して走る溝群が検出されたことにより、当遺跡の特徴的な遺構のあり方も確認された。今後は姫下遺跡の遺構群との関係が検討課題となる。

(酒井俊彦)



A~D区全景 (北より)



E区全景 (南より)

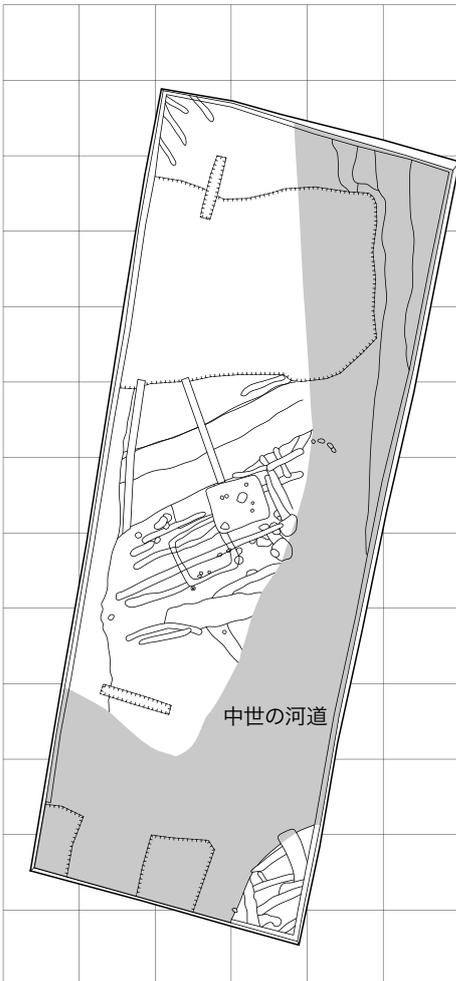


図2 E区遺構全体図 (1:500)

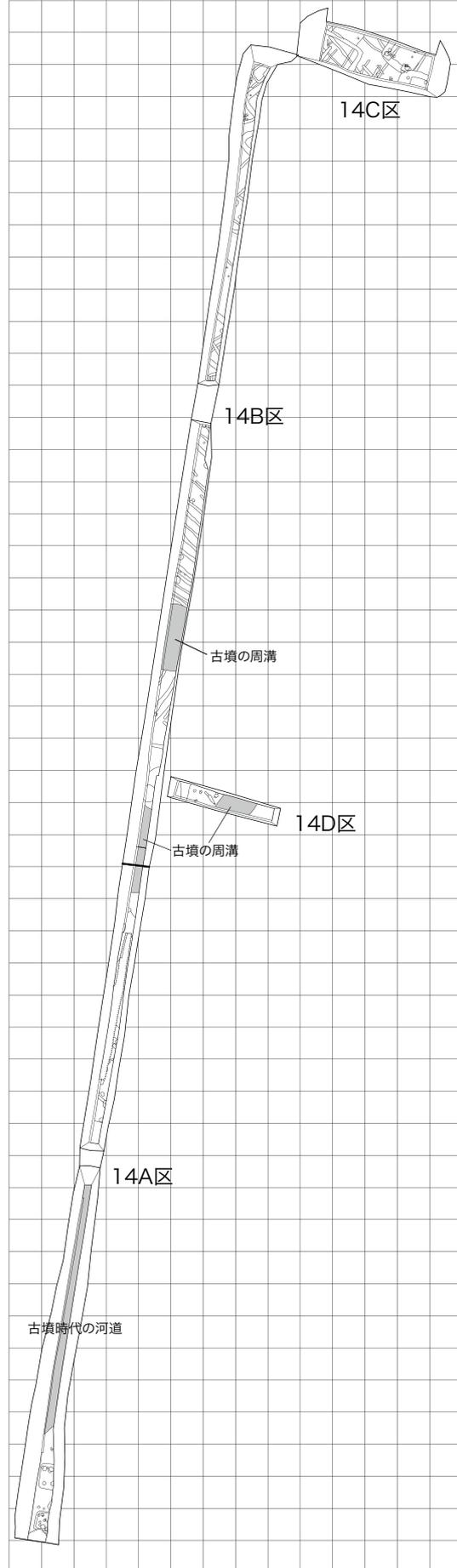


図1 A~D区遺構全体図 (1:1,000)